

## 2019年度 事業報告書

平成31年4月1日から 令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

### 1 事業の成果

2019年度は、2017年度にスタートした福岡県リサイクル総合研究事業化センター(以下、リ総研)の共同研究事業「フードバンクを活用した食品ロス削減推進共同研究プロジェクト」の最終年度であり、この3年間を通してフードバンク北九州ライフアゲインの事業基盤が着実に強化されてきたことを実感する年度となった。

また、年度末のコロナウィルスの影響で社会がゆすぶられる状況において、ライフアゲインの事業が目玉を集め、その役割発揮することを強く期待される年度ともなった。合わせて、行政、民間も一体となってSDGsというフレームで世界を見、活動を始めていることは、ライフアゲインの強い後押しともなっている。

法人化して6期を終え、ライフアゲインは設立期から成長期に入ってきたといえるであろう。ライフアゲイン事業の環境アプローチ・福祉アプローチともに充実させ、次のステージを展望する年度となった。

#### 【フードバンク事業】

数字で見るフードバンク事業の推移は、次の通りである。

	2018年度実績	2019年度計画	2019年度実績
活動費	13,505,826円	15,754,610円	12,971,727円
食品取扱量	79.9トン	100トン	48.8トン
食品提供企業数	122社・団体	130社・団体	142社・団体
食品受け取り施設	87箇所	100箇所	111箇所
子育て世帯食料支援数	22世帯	35世帯	43世帯
子育て世帯支援総数	96世帯	100世帯	135世帯
緊急食料支援件数			30世帯

#### ■フードバンクの基盤整備と機能強化

##### <保管機能・配送インフラの整備、食品品質管理基準の運用>

- ❖ 保管施設においては、3温度帯(常温・冷蔵・冷凍)での管理ができ、多量多種の食品の受け入れが可能となっている。また、カゴ車等の保管に必要な備品も整備された。
- ❖ 配送インフラにおいては前年度にJA共済連福岡より車両の寄贈を受け、軽トラックと合わせて安定した配送ができています。
- ❖ 2017年度から2018年度にかけて、本部食品保管倉庫のスペース拡張、重量計、温湿度計、業務用冷凍庫2台、冷蔵庫1台、恒温高湿庫(野菜専用)1台が揃った。また倉庫整理用のカゴ車も27台、折り畳みコンテナ50個、保冷ケース20個揃え、精米機も寄贈していただいて保管施設の整備がほぼ整った。
- ❖ 今年度は、リフトや平台車も購入し、作業の負荷を軽減することができている。
- ❖ 2017年度から2018年度にかけて共通の衛生管理基準、食品事故対応マニュアル、食品チェックシートの策定及び運用を開始した。食品管理チェックシートを週1回、月1回のチェック項目に分け、チーム制より徹底した食品管理が可能となった。



リフトを使って荷積み

## ■食品寄贈企業の開拓

食品寄贈企業の開拓は、リ総研の研究事業として一体的に行ってきた。今年度は目標130社、150トンとしたが、結果はリ総研が取りまとめたもの（プロジェクトメンバーのフードバンク福岡の数値も入れて）として食品寄贈企業数はおおよそ170社、食品取扱量140トンであった。食品寄贈企業数が増加する中で食品取扱量が増加せず横ばいになった要因は、企業の再寄贈率が低いこと、配布先における受取希望量がさほど増加していないことが考えられる。

その中で、コープさが（豪雨災害のため配達できなかった商品）や日本生活協同組合からの冷凍品寄贈の増加、全国フードバンク推進協議会を經由して合意書が締結された（株）ローソン、大手スーパー（株）丸久など食品提供の新たな流れが生まれている。

また、福岡県フードバンク協議会の設立に伴い、食品寄贈企業の開拓、合意書の窓口の一本化が図られ、その部分の負担軽減が可能となった。

### <食品寄贈企業からの継続的な提供にむけて>

- ❖ 食品寄贈企業数が増加する中で食品取扱量が増加せず横ばいになった要因として再寄贈率の低さをあげたが、今後の継続的食品提供のためには、各企業との関係性を強化していくことが必要と考える。そのために、主な提供企業への感謝レターを定期的に郵送しているが、手作業のためどうしても漏れが生じている。
- ❖ この改善策として開発されている「フードバンク支援システム」に企業への感謝レター発送の機能が組み込まれているので、この機能に期待したい。

### <新しい受け取りモデル>

- ❖ 前年度にスーパーにおいて県内初めて、（株）丸久（店舗名アルク）と合意書を締結し、小倉北区と小倉南区の2店舗において食品の寄贈がはじまったが、門司区にアルクの新店舗が開業した時期に合わせて、市内アルク3店舗における子ども食堂に特化した青果物の直接寄贈が1月より始まった。
- ❖ この北九州市モデルは、提供側が持つさまざまなリスクを除外するために、受け取り側に条件を与えた。1 つは、市が事務局となって食品衛生管理基準をクリアした子ども食堂のみ加盟できる「子ども食堂ネットワーク北九州」に加盟していること。2 つ目は、食品配送における温度管理やトレーサビリティの徹底をうたっている当団体と合意書を締結していることである。このモデルが構築されることで、市内スーパーからの食品寄贈が進むことを期待している。



## ■食品支援先の拡大に向けて

食品支援先:111団体、食品取扱量:46.3トン、個人支援は319件（累計）

今年度、食品支援先（パートナー団体）すべてに対して意見交換会を開き、適正量の食品配布が行えているかのヒアリングを行い、横流しや再廃棄を防止するための予防を行った。

一方、食品支援先の半数が様々な理由で食品の受取りができていないことが分かり、今後の課題として認識している。

また、ファミリーサポート事業として子育て世帯に対して食料支援も行っているが、個人要支援者の受取り拠点拡大についても、行政および（株）サンキュードラッグと協議を進めている。



パートナー施設等との意見交換会

## ■自治体や社会福祉協議会等との連携強化

食品ロス削減、困窮者支援、子どもの貧困、SDGs、そして子ども食堂など、自治体や社協と連携できるテーマが複数ある。そして、食品ロス削減推進法が今年度に制定され、明記されているフードバンク支援の具体的方針の決定によって連携はより強化されることが期待される。この機会をどう具体的な連携および支援施策に結び付けていくかが今後の課題。

- ❖ 2017年度から2018年度にかけて、北九州市子ども家庭局は子ども食堂市内普及事業や各区役所に設置している「子ども家庭相談コーナー」との連携、保健福祉局とは各区役所に設置している生活困窮者相談窓口「いのちをつなぐネットワーク」との連携を深めてきた。そして今年度は、子ども家庭局と保健福祉局の両部署と継続的な連携を図るための合同協議が開始された。
- ❖ 環境局とは食品ロス削減やフードドライブでの連携を展開してきた。
- ❖ 北九州市社会福祉協議会とは、フードドライブ活動をきっかけとして連携が深まり、今年度から各区役所にフードドライブBOXが設置され今後の展開が期待される。
- ❖ 今年度、2019北九州SDGs未来都市アワードのSDGs大賞を受賞した。今後、北九州市のSDGsクラブに加盟している200社の企業等との連携も期待される。
- ❖ 福岡県環境部との連携で食品ロス削減教育プログラムである「ロスロス市立大学との協働で実施した。



北九州市社会福祉協議会フードドライブ

### ■子ども食堂等への支援拡大

- ❖ 「子ども食堂ネットワーク北九州」との連携が強化され、増加する子ども食堂に比例して合意書を締結する子ども食堂が増加している。また、先に記載した㈱丸久が運営しているスーパーアルクからの青果物寄贈が始まり、この北九州市モデルが他スーパーの食品寄贈につながることを期待している。
- ❖ 12月に「子ども食堂の支援に向けた取組に関する連携協定」を北九州市と締結した。この協定によって、子ども食堂への食品提供は更に進んでいくことが期待される。



北九州市における子ども食堂の支援に向けた取組に関する協定

### ■フードドライブ

フードドライブは食料調達だけではなく、広報の機会として大きな役割を果たしている。エフコープ店舗、市民センターで行われている市内一斉フードドライブキャンペーンの他、イオン3店舗では、毎月1週間開催。ギラヴァンツ北九州の11月24日の試合開始前に2時間開催。市内一斉キャンペーンは10月16日(世界食糧デー)から30日(食品ロス削減の日)までと、2月3日から16日までの年2回開催した。

### 【ファミリーサポート事業】

ファミリーサポート事業は、子ども食堂の普及と体験を重視した校外学習(子ども会活動)で構成している。

#### <子ども食堂>

子ども食堂は、地域の子ども達を地域全体で育てていく場として、また、各世代をつないでいく地域の拠点として、全市校区に1ヶ所の子ども食堂が必要だと考える。そして、子ども食堂を地域包括ケアのプラットフォームとしていくことを目指しているが、着実に地域に浸透してきたといえる。今年度は「子ども食堂の支援に向けた取組に関する連携協定」を北九州市と締結し、さらに重要性が認識されてきたといえる。

今年度末は、一気に広がったコロナウィルスの拡大防止のために、子ども食堂の活動を停止せざるを得なかった。しかし、休校となって給食がなくなり、また仕事を失って困窮する子育て世帯への食料支援(フードパントリー)の拠点として、子ども食堂は大きな役割をはたした。

#### ❖ もがるかホーム

商店街の中にある立地条件を活かして、生きる力を育むことを目的にした多世代交流の子ども食堂。学習支援にも力を入れている(小学生対象のもがるか教室、中学生対象のオンリーワン学習塾)。

開催日:毎週月・火・木 時間:午後5時～8時

登録児童:19名 スタッフ:8名 地域ボランティア:5名

西南女学院大学学生:24名

開催回数(2019.4/4～2020.3/30)130回

※3月以降はコロナ感染拡大により開催休止

参加延べ人数:2600名

❖ 尾倉っ子ホーム

皿倉小学校区をモデル的地域として発展させていくために運営されている子ども食堂

開催日:毎月第2・4水曜日 時間:午後5時～8時

登録児童:38名 スタッフ:15名 地域ボランティア:12名

北九大ボランティア学生:10名

開催回数(2019.4/10～2020.2/12)20回

※2/12以降はコロナ感染拡大により開催休止

参加延べ人数:1011名



### <もがるかキッズクラブ>

子ども食堂に登録している子どもと食料支援世帯の子どもを中心に声かけしているが、基本はだれでも参加できる。

子ども食堂などで、学習支援をする中で、どうしても学力が上がらない子どもたちもいる。発達障害や軽度の知的障害を持っていると思われるが、普通学級に在籍しているためクラス内で遅れてしまい、劣等感を持っている子どもも多い。しかし、子どもには他の部分で秀でている所が必ずあり、彼らが校外で未知の体験をすることによって感動し、自己肯定感を育んでいくことを目指している。また同時に、さまざまな仕事を体験することで、自分の夢と出会い、やりたいことが見つけられることを期待して、一年間の計画を立てている。

今年度は、年間通して同じ農家のご協力をいただいて企画・実施した。

開催回数:5回(6月22日～12月21日) 参加延べ人数:213名

- ❖ 6月:田植え体験(宗像市武丸)
- ❖ 8月:馬といっしょに磯遊び(北九州市若松区)
- ❖ 9月:楽しくてびっ栗! 栗拾い&竹遊具づくり
- ❖ 10月:天縁ぼう 稲刈り体験(宗像市武丸)
- ❖ 12月:天縁ぼう お米に育った! もちつくぞ



### 【食のセーフティネット事業】

ライフアゲインでは、子育て世帯への継続的な食料支援、全般的な緊急食料支援を行っているが、食料支援だけでなく寄り添いチームによる要支援者、要支援世帯へのヒアリングを行っている。また、食料支援が終了した子育て世帯にたいしても継続的に寄り添い、傾聴、情報提供、他への連携などを行っている。要支援者に対する窓口であり、ライフアゲインの心臓部ともいえる。ライフアゲインが目指している包括的支援は、この事業から展開していくものとする。

今後の課題は、コロナウィルスの拡大で一気に増加した困窮者の対応でも顕在化したのが、人員・人材の増強である。これから要支援者へのアウトリーチが進めば、その要請はさらに大きくなっていく。

行政はじめ他団体との連携、協働も進んでいるが、そのスピードアップが求められていると考える。

## 【普及啓発事業】

ライフアゲインのミッション“生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない、十分な教育を受けられない、寂しい思いをしている子どもを北九州市からゼロにする”を果たし、全ての子どもたちが大切にされる社会を実現するには、私たちの働きだけでは不可能である。私たちがどのような社会を目指すのかを伝え、それぞれがどのような関りをしていくのか、理解し、学び、連携していかなければならない。

そのために、さまざま形の普及啓発活動は、非常に重要である。2019年度も多様な取り組みを行った。

### ＜ホームページ・フェイスブック等による情報発信＞

フードバンク事業、ファミリーサポート事業、普及啓発事業、事務局等の各部署に広報担当を置き、ライングループにて活動写真をその日の内にアップしていただくようにした。そしてホームページ、Facebookを毎日更新するルーチン化を目指している。ホームページの全面リニューアルを2019年度8月に公開した。

また、エフコープ生活協同組合、(株)サンキュードラッグ、(株)大英産業等の支援企業に情報発信協力を求め、ホームページやSNSにて当団体のイベント情報(フードドライブや古本チャリボンキャンペーン等)を紹介していただいた。



リニューアルしたホームページ

### ＜パンフレット、ニュースレターの作成＞

- ❖ 新たなミッションとロジックモデル作成にともない、パンフレットの内容を全面的に修正し、街頭で気軽に配布できる三つ折りリーフレットを作成した。
- ❖ ニュースレターを年3回発行する計画を立て、8月、12月に発行をした。大きさはご年配の方でも読みやすいA3判タイプとした。



### ＜シンポジウム・講演会の開催＞

- ❖ パートナー意見交換会(全食品受取り施設に対して年1回当団体のミッションや方針を共有し、信頼関係の構築を図っている)を計10回行った。



- ❖ ライフアゲインカフェ(支援者やボランティアの交流の場として開催)を6月と1月の2回開催した。1月においては認定NPO法人アカツキの永田氏が企画をコーディネートとし、ボランティア交流が活性化するプログラムで開催した。
- ❖ ライフアゲインがチームリーダーを務めた共同研究の成果である福岡県フードバンク協議会の設立記念シンポジウムが行われた。原田理事長がコーディネーターを務めた。
- ❖ 原田理事長を講師とした講演会は43回開催された。企業、学校関係においてはSDGsに関連する内容を希望するケースが増加している。

ライフアゲインCafe

### ＜街頭での対面型広報活動＞

9月と1月に小倉井筒屋本店にてそれぞれ2日間にわたり、初めての対面型広報活動を行った。活動参加者のほとんどは、街頭での声掛けは初めてだったが、立ち止まって話を聞いてくれる人も多くあった。見知らぬ人に短時間でライフアゲインの活動を伝える難しさはあったが、応援の声もかけてもらい力づけられた。



### ＜さまざまな研修活動＞

- ❖ ボランティアマネジメント相互研修…10月にボランティアマネジメント相互研修会を開催し、ボランティアの方々が自主的に活動に取り組むことができる組織体制を学んだ。
- ❖ 広報政策について検討…9月にさまざまな立場から、広報について協議した。その成果として、「年末パワーアップキャンペーン」を行い、それぞれの



立場でライフアゲインの活動をお知らせする活動を、自己目標を示して取り組んだ。

<支援型自動販売機・寄付付き商品等>

- ❖ 寄付型自動販売機は、前年度においてはエフコープ生活協同組合が3店舗に各1台、(株)大英産業が1台設置で計4台であったが、今年度に九州歯科大学が5台設置していただき総計9台
- ❖ 2月から(株)九州電力と北九州支所内の自販機設置場所を賃貸借契約し、当団体の寄付型自販機を設置した。
- ❖ コカ・コーラボトラーズジャパン(株)との協働として、「寄付型自販機によるSDGs市内普及計画」を立て、市内SDGsクラブ加盟企業にアプローチを開始
- ❖ カレーフォーチルドレンの商標取得。市内カレー店48店舗への訪問開始
- ❖ 寄付付きTシャツの製造販売業者(株)JAMMINにおいてオリジナルTシャツを製造販売した。



<もがるかキッチン>

2019年度7月より、もがるかキッチンをライフアゲインの自主事業とした。もがるかキッチンは、子ども食堂もがるかホームが使用している施設の空き時間を活用しているレストランだが、地域に向けたライフアゲインからの情報発信の場と位置づけて取り組んだ。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

【フードバンク事業】

定款 の 事業 名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象 者の範囲 及び人数	事業費 の金額 (千円)
フ ード バ ン ク 事 業	食品関連業者及び個人から余剰食料を回収し、社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供する。 ※目標とする数字…食品取扱量:100トン ※達成した数字…食品取扱量:46.3トン	通年	県内	24名	105施設 個人135 世帯	4,540 千円
	食品提供企業を開拓するために、福岡県と協働し企業開拓する。 ※目標とする数字…提供企業130社 ※達成した数字…食品提供企業:142社			1名		
	食品諮問委員会において、食品提供企業との対話を通じ、フードバンク事業の発展に役立てる。 ※目標とする内容…参加企業10社で年一回対話 ※開催結果…フードバンク活動推進に向けた情報交換会(3月5日)を予定していたがコロナ感染拡大に伴い開催を中止。 WEB上で企業とのマッチングサイトを農政局が立ち上げた。	3/5 開催 中止				
	フードドライブを実施し、提供された食品を社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供 ※目標とする数字…イベント集荷:年3回、その他の集荷:年2回 ※開催実績…10/16～30市内一斉キャンペーン 11/24ギラヴァンツ北九州試合 2/3～16市内一斉キャンペーン 毎月イオン3店舗にて1週間開催 《自主開催》 北九州市立大学、大英産業、引野市民センター、ロスロスハロウィン、北九州市社会福祉協議会	10/16 ～30 11/24 2/3～ 16	市内	10名		

【ファミリーサポート事業】

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
ファミリーサポート事業	八幡東区中央町商店街内の「もがるかホーム」の運営。月12回開催。 ※コロナの影響で、2月から休止	毎週 月・火・木曜	県内	54名	30名	1,864千円
	尾倉市民センターで開設している「尾倉っ子ホーム」の運営。月2回開催 ※コロナの影響で、2月11日から休止	毎月第 2、4 水曜		37名	45名	
	学習支援(小学3～6年生) もがるか教室 月/英会話、木/算数	毎週 月・木		38名	10名	
	もがるかキッズクラブ 子ども達を対象にキャンプなどのイベントを企画・主催。					
	・天縁ぼう 田植え体験 ・馬といっしょに磯遊び ・天縁ぼう 栗拾い体験 ・天縁ぼう 稲刈り体験 ・天縁ぼう もちつき体験	6/22 8/3 9/21 10/19 12/21		8名 6名 8名 11名 10名	44名 35名 51名 44名 39名	

【食のセーフティネット事業】

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
食のセーフティネット事業	食料支援を行っている子育て要支援家庭に対して、面談あるいは訪問をすることでニーズを把握し、実情にあった支援につなぐ	随時	市内	4名	子育て要支援45世帯	17千円
	株式会社サンキュードラッグの協力により受け取り拠点開拓 ※八幡東区の平野店をモデルとして行った。ただし、本部倉庫が平野店と近いため、冷凍品や生鮮品も受取れる本部倉庫に受益者が集中してしまった。今後は他の店舗も開拓をしていく。	毎月 10日～ 20日	サンキュードラッグ 平野店	4名	八幡東区の子育て要支援世帯	



	ステークホルダー30団体程度(いのちをつなぐネットワーク、社協、生協等)との連携合意書締結の計画であったが、まず、核となるいのちネットと子ども家庭相談コーナー、生活保護課との協議を実施し、共通合意を図って次年度に向けての方針を固めた。	2/18	市庁舎	3名	市内の子育て要支援世帯	
--	---	------	-----	----	-------------	--

【普及啓発事業】

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
普及啓発事業	理事長が講師を務めて講演会	43回	九州内	1名	事業に関心のある方々	2,400千円
	パートナー事業説明会	10回	事務所	1名	食品受取施設	
	対面型ファンドレイジング ・対面型FR研修 8月 ・小倉井筒屋にて実践	8月 9月 1月	小倉 井筒屋	10名	ブース 来場者	
	イオン黄色いレシート	毎月	市内	10名	不特定多数	
	子ども食堂応援BOOK 増刷、配布	11月	市内	10名	子ども食堂関係者及び興味のある方々 200名	
	パンフレット、ホームページリニューアル	10月	県内	3名	当団体の事業に関心のある方々	
	ニュースレター発行 2回発行	6月 10月		5名		
	もがるかキッチン	7月 ～ 3月		10名	2,500人	

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 3 2の(1)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに支出額をそれぞれ記載する。
- 4 2の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載する。
- 5 2の(2)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数及び支出額をそれぞれ記載する。定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、当該事業年度に実施しなかった場合も「実施しなかった」旨を記載する。